

平成21年度 自己評価報告書

学校名 四日市西高等学校

(1) 学校経営の改革方針における今年度の重点取組についての評価結果

行動計画の目標・評価方法		達成状況・評価結果	具体的取組に関する成果や課題
学習指導	<p>中長期重点取組 授業→家庭学習→週課題→小テストという学習サイクルの確立を目指す。</p> <p>1 英語、国語、数学の週課題の課題提出率90%を目指す。</p> <p>2 家庭学習時間の調査を年間5回実施し、 ①学習時間平均が1.0時間を超えること ②家庭学習時間0の生徒の低減を目指す。</p> <p>3 週課題の内容の精選を行う。</p>	<p>1 未達成。 提出率87.2% ただし学年・クラスにより差がある。</p> <p>2 ① ほぼ達成 1 学年平均1.1時間 2 学年平均0.9時間 ② 未達成 昨年度同様8%~10%の間で推移。</p> <p>3 達成したとは言えない。 教員側は精選し週課題を作成しているが、要領よく課題を提出することが目標になっている生徒も多くおり、基礎学力定着につながっているとは言えない。</p>	<p>1 成果 ルールは必ず守る(提出すべき物は出す)という規範意識は定着した。</p> <p>2・3 課題と成果 週課題のねらいは確かな学力の定着であることを生徒に言い続け、少しでも成果が実感できることが大切。家庭学習に時間をかけるよう課題の内容の再考と小テストとの完全連動が必要。ただ、成績下位層の成績は向上した。</p>
生徒指導	<p>中長期重点取組 基本的な生活習慣を確立し、高い規範意識を持ち社会のマナーを身につけた自律的に行動できる生徒の育成を目指す。</p> <p>1 学年、家庭と連携し遅刻指導を徹底させ、総数を昨年度比3割減少に努める。</p> <p>2 貴重品や自転車などの管理を徹底させ、物を大切にすることを育てる。</p> <p>3 学年と連携して頭髪や制服指導を徹底させ、規範意識の向上に努める。</p> <p>4 挨拶運動の推進や登下校指導などを通し、社会的マナーを身につけさせる。</p>	<p>1 目標を超えて達成。 1月末現在で要指導遅刻総数は、昨年度の38.3%減少。</p> <p>2 達成したとは言えない。 未施錠自転車は減っているが0になっていない。また教室移動時の施錠もまだまだ不十分である。</p> <p>3 未達成 制服導入2年目で指導には力を入れているが、男子のネクタイ、シャツ、女子のスカート、カーディガンにおいて違反者が多い。</p> <p>4 未達成 生徒会・PTAと連携し挨拶運動を行っている。自分から挨拶のできる生徒は増加しているが多くはない。また通学マナーへの苦情があるのが実情である。</p>	<p>1 成果 遅刻数は激減傾向にあるので、来年度もさらなる減少を目指したい。</p> <p>2 成果と課題 自転車は90%以上が施錠されており、自転車のちょい借りはほぼ無くなってきた。また校内での盗難も同様に、ほぼ無くなった。生活委員活動としての移動時の教室施錠など100%を目指していきたい。</p> <p>3・4 課題 本校の生徒であることに誇りを持つことで二次的に制服の正しい着用や社会的ルールを守ることに繋がっていく。教育活動のあらゆる機会における指導をしていきたい。</p>

<b>進路指導</b>	<p>中長期重点取組 自己をしっかりと見つめ直し将来の生き方を考え、進路希望についての具体的な目標を持ち、進んで自己の課題に取り組む生徒を育成する。</p> <p>1 講話・LHR/外部講師等によるガイダンスを通じて、職業や学部・学科についての関心を高め、進路に関する資料の貸出率を10%増加させる。</p> <p>2 「進学のおしり」「進路資料」を充実させ、自ら望む進路実現度80%を目指す。</p> <p>3 「模擬試験の記録」の活用度80%を目標に生徒自身が到達度を的確に把握し励みにつなげていく。</p> <p>4 学年の枠を超えた教員で生徒の進路指導をサポートするため、①1,2年の担任学習会、②大学出願指導学習会を行い面談の充実につなげる。</p> <p>5 4年制大学進学率70%を目指す。(昨年65%)、</p> <p>6 センター試験受験者数190名(現3年生60%)以上を目指す。(昨年178名)</p> <p>7 教員向け進路新聞20号、生徒保護者への進路だより10号を発行し、進路情報の提供を行う。</p> <p>8 保護者向け進路講話を充実させ、情報提供等を含めた満足度80%を目指す。</p>	<p>1 目標を超えて達成 進路資料延べ貸出数は前年度比70%の大幅増加であった。</p> <p>2 達成 進路のおしりは内容を一部追加し、より充実させた。また保護者アンケートでは進路保障満足度は86%であった。</p> <p>3 未達成 統一した指導時間等が確保できず、また総合学習との連携が十分でなく、せっかくの資料を十分活用できなかった。</p> <p>4 達成 面談力アップ、3年生個々の出願指導の充実を目的に1,2年生担任も参加して実施できた。</p> <p>5 達成 最終的には80%弱になった。</p> <p>6 達成 202人が受験。</p> <p>7. 8 目標を超えて達成 進路新聞は20号、各学年だより、進路だよりは目標数を大幅に超えて発行。 3年生保護者アンケートでは満足度82%を得た。</p>	<p>成果と課題 3年生保護者アンケートでは、進路情報提供で82%、進路行事では85%の満足であるという回答を得た。しかし、「説明がわかりにくい」「もっと早くに情報がほしい」「専門学校の情報が足りない」などの指摘もあり、また1,2年生保護者アンケートでは他の分野に比べ上記の進路関連の満足度が70%台と低かった。来年度に向けては各学年とより密に連携し、1,2年生には早い段階から、限られた機会をとらえ、いかに重要な情報を分かりやすく提供できるかが重要なキーとなる。</p>
-------------	--	--	--

## (2) 組織の状態の評価結果

強 み	<p>セルフアセスメント及び教員満足度アンケート(回収率100%)、生徒・保護者アンケート結果による強みは以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・「学習指導におけるやりがい度」や「学習者の理解と対応」に関する肯定的意見、生徒保護者の満足度は昨年度より大幅に増えている。管理職や分掌が中心となり形を整えた学習支援システムが、学年団や教科担任主導に移行している。よって確かな学力の定着・進路自己実現を目標とした学習支援の中身が、より一層充実していくことが期待できる。</li><li>・進路保障に向けたきめ細かな指導が定着し担任団の意識が変わってきた。生徒理解を進め、より良い進路実現のためのノウハウの探求が進んでいる。またそのことを生徒・保護者も実感している。</li><li>・生徒指導を根本に据えた日々の教育活動への取組に関しては「やりがい」を感じている教員は前年度より17%増の55%になった。保護者アンケートでは少々厳しめの生徒指導であるが、満足度は全体で平均約85%と高く、このことは教員に励みとなっている。生徒指導部任せという弱点が徐々にではあるが解消し、担任団主体の指導の幅が増えている。</li><li>・本校の状況をHPや地域の通信に定期的に継続して発信していることで、地域の本校への関心を高め、連携をより一層深めることができている。結果として、本校での様々な活動(生徒育成、クラブ活動、教科の活動など)に対し地域より温かく支援していただいている。</li></ul>
弱 み	<ul style="list-style-type: none"><li>・本校は近年きめ細かで厳しい生徒指導に取り組んでいる。それらの指導は決して楽しいものではないが、1つひとつのことに丁寧に取り組む指導体制が大変重要であるという認識は全職員(100%)にある。強みの部分に記述してはみたが、生徒指導に「やりがい」を感じている教員まだ55%に過ぎないとも言え、弱みの域を脱していない。</li><li>・部活動の重要性は100%認識されてはいるが、教員の年齢層が高い本校では、生徒・保護者の様々な期待に十分応えているとは言えない。専門ではない部活動の指導をおっくうがる教員は少なくない。</li><li>・進路検討会開催や様々な学年だよりなどの通信の共有化は進んできたが、まだまだOJT研修や授業力アップのための取組が遅れている。</li><li>・風通しの良い職場、ざっくばらんな意見交換ができる職場づくりができているとの回答は昨年度より減少し50%を超える程度である。小規模単位(教科、担任、分掌など)での独自の取組が進むにつれ、知らず知らずに排他的な雰囲気醸成されているのではないかと危惧する。</li></ul>

## (3) 組織力向上のための取組(改善策)

### 次年度に向けた取組

- ・生徒の育成のためには、教員間及び管理職との人間関係のあり方やコミュニケーションが上手くとれているか等が大きなポイントになると思われる。ハード面は随分整ってはきたが、もう一步踏み込んだソフト面での充実が求められる。個性溢れる多くの教員の持ち味や能力をどうやって引き出していか、様々な迷いが生じるであろうが、自信を持って取り組めるような環境づくり・適切な助言などは管理職の力量が問われるところである。また、必要な情報の共有と対話は風通しの良い職場となるためには欠かせない要素であり、その場の提供とともにルールを決め浸透させる必要がある。
- ・明るいユーモアのある職場づくり・互いが互いを尊敬し大切に思いやることのできる雰囲気づくり、生徒の能力を引き出すための各々のノウハウの共有化など、日々の地道な取組が必要となる。キーになる教員を中心に全面的なバックアップを惜しまず、柔らかい動きのある職場の雰囲気を醸成していく努力を地道に続けていきたいと考えている。

